

石川県立教育支援センター やすらぎ穴水だより 第97号 令和3年3月

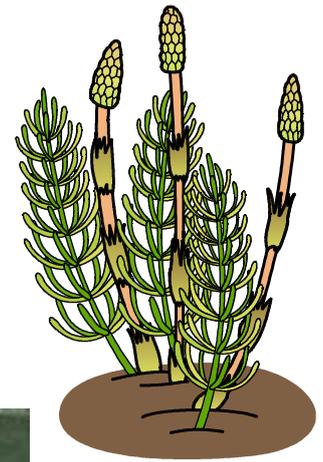
石川県立教育支援センター「やすらぎ穴水教室」

〒927-0026

石川県鳳珠郡穴水町大町リ78-2

電話/FAX (0768) 52-2258

E-mail anamio@ishikawa-c.ed.jp



春の風物詩

いさざ漁

「やすらぎ穴水教室」は、いろいろな理由で学校に行けなくなったり引きこもったりしている子どもたちに安心できる居場所を提供し、社会的な自立や学校復帰のための支援を行っています。

一年を振り返って

昨年2月末からのコロナ禍の影響が1年たった今でも続いており、教育現場はその対応に追われ日々奮闘していることと思います。

やすらぎ穴水教室では4～5月は例年より相談件数が少なく、ほとんど電話による対応だけでしたが、6月以降一気に増えてきました。特に後半は通室する生徒もいて、一人一人に寄り添いながら支援していくことで安心できる居場所を提供できたと感じております。

相談者に対しては相談員、指導員だけでなく、SVやSSWと連携をとり、さらに学校との連絡を密にしながら対応してきました。今後とも本教室が、相談者が利用しやすく、心がやすらぐ場所となるように取り組んでいきたいと思っております。

令和2年度やすらぎ穴水教室月別利用状況（相談件数と通室生徒数）

	来室相談	訪問相談	電話相談	SV等相談	合計	通室生徒
11月	0	1	4	2	5	1
12月	13	0	2	3	15	2
1月	20	0	3	2	23	2
2月	14	1	1	2	16	2
3月	6	1	1	1	8	2

（SV等相談はSSW相談も含み、その件数は来室相談or訪問相談件数に含まれる）

（この1年やすらぎ教室を飾ってくれた花）



左からイチゴ
ダリア
沈丁花

今年度分の SV (SC)、SSW の相談会はすべて終了いたしました。ご利用いただきありがとうございました。次年度も皆様からのご相談をお待ちしております。

最後にこの1年の相談会を振り返り SV (SC)、SSW の3名からメッセージをお届けします。

今年度は SSW (スクールソーシャルワーカー) でも本来業務でも、新型コロナウイルスに悩まされた1年でした。行動は制限され、毎日の報道に脅かされました。学校に通いたくても休校となり、また休み明けで学校に行くことが億劫になったり…、子どもたちにとっても過去に経験をしたことのないストレスフルな年だったと思います。

SSW として、今年も様々な方の相談に対応させていただきました。生徒本人だけではなく、ご両親や学校の先生、時には病院の医師とお話させていただきました。派遣依頼は様々ですが、その都度一緒に問題を考え、解決に向けた動きをしてきました。うまくいったものや、落ち着いたもの、問題が残存するものなど、すべてがハッピーに終わったわけではありませんが、その方の人生の一部に SSW としてかかわれたことは光栄だと思っています。まだまだ周知されていない事業ですが、利用してくれた皆様ありがとうございました。そして来年度もよろしくお祈りします。 SSW 木谷 昌平 (精神保健福祉士)

こんにちは。今年度も SW (スーパーバイザー) を務めさせていただきました、竹林です。

今年度ももう終わりが近いですが、残念ながらコロナウイルス感染拡大の終息というわけにはいきませんでしたね。ただ、気付けば今の状態に適応してきた人も多いのではないのでしょうか。

しかしながら、うまく適応する人がいる一方で、なかなか新しい環境への適応が難しい人もいたことでしょう。また、適応するために精一杯で、他の事まで処理しきれず、しんどくなってしまったという人もいたかもしれません。

今年度の相談内容では、コロナウイルスが直接的な原因でなくても、間接的に不調を引き起こしているということがままあったように感じます。

一人で悩んでしまうと、どうしても自分が悪いのではないかと思ひ込んでしまいがちです。そしてそれは、当事者だけでなく、保護者の方といった支援者も同様です。

そんなとき、誰かに相談して、助言を求めたり、話を整理するだけでも、環境の変化が自分に与えている影響の大きさを認識できるかもしれません。何でも自分のせいと思ひ込み背負い込まないために、相談できる環境を少しでも作っていたらいいなと思う一年でした。

SV (SC) 竹林 勇祐 (公認心理師/臨床心理士)

昨年4月から SSW として悩みを抱える生徒やご家族に関わらせていただき、初めて支援した生徒が今年3月卒業式を迎えることが出来ました。このことは、とても感慨深いことであり、悩んで悩み抜いたお子さんやご家族が新しい道に向かって進んで行けることを共に喜び合うことができ、SSW として活動してきた手ごたえを感じた瞬間でした。

何人かの子どもたちとの関わりの中で、子どもたちは素直に自分の弱さを外に出すことが出来るんだな、感心したことがあります。自分の弱さを外に出せることは、ある意味「強い」ことだと私は思うからです。多くの人との関わりの中で、子どもたちは自分のことをこんなに心配してくれる人が周りにいるんだと改めて感じ、自分の弱さをさらけ出すことが出来るようになり、そこから道が開けるんだと支援の体験から私も学びました。

初めて SSW として就任した時に掲げていた「子どもたちが前に進む一歩となる足がかりを一緒に見つけていくこと、そして子ども達の笑顔が一つでも多く学生生活の中に刻まれていくこと」の支援が出来たかどうかは定かではないですが、時折見せる子どもたちの笑顔が心に刻まれています。

SSW 橋本 みすず (社会福祉士)